

8. 「地域と連携した高等学校の在り方」

～連携型中高一貫教育校としての歩みとこれから～

宮崎県立福島高等学校長 吉田 重樹

1 はじめに



宮崎県の最南端、鹿児島県志布志市に隣接する串間市にある唯一の県立学校であり、高等学校である宮崎県立福島高等学校は、令和4年に創立100周年を迎えた伝統校である。高等女学校をその起源とし、新制高等学校発足とともに普通科、家庭科、農業科（含分校、定時制）、商業科を有する総合高校としてスタートした。その後、社会構造の変化や人口減少を背景に徐々に生徒数が減少し、現在は普通科のみの高等学校である。

平成29年度より、串間市立串間中学校との間で宮崎県唯一の連携型中高一貫教育校としての教育活動を開始した。

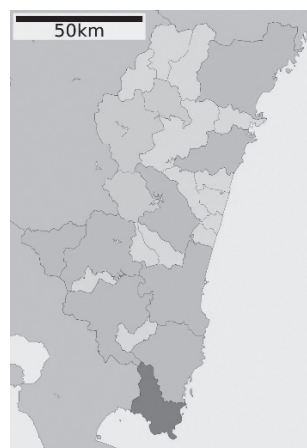
中学校、高等学校ともに串間市内に1つずつしかない環境の中で、串間市からの多くの支援を受けながら、教育活動を展開している。しかし、開始以来7年間を経て一定の成果も挙げてきている。しかし、多くの課題も見えてきている。

2 串間市について

(1) 地域の特徴

①地理

串間市は、宮崎県の最南端に位置し、面積は295.16km²、東は日向灘、西は鹿児島県志布志市と隣接し、南は志布志湾を臨み、北は都城市及



び日南市と隣接。

平均気温17.8度（平成25年）で、積雪もなく温暖な気候に恵まれている。海岸線には、起伏に富んだ島々や岩礁が点在する日南海岸国定公園に連なる海中公園、野生馬の都井岬、亜熱帯植物が繁茂し、美しい渚の市木海岸など、自然のあふれる観光田園都市である。また、京都大学霊長類研究所による「文化を持つサル」イモ洗い行動が観察された幸島がある。



②歴史

室町時代に櫛間地方（現在の串間市福島地区）に野辺氏が地頭として派遣され、野辺氏の根拠地として栄える。また、江戸時代には今の串間

市は全域そのまま高鍋藩秋月氏の所領（現在の宮崎県児湯郡高鍋町を中心とする地域）であったため、鹿児島県と隣接しているが、方言その他の影響は少ない。

昭和29年、福島町、大束村、本城村、都井村、市木村が合併し、串間市となり、現在に至っている。

③産業その他

- ・交通状況は、宮崎駅からJR日南線で約2時間、国道220号線で宮崎市内から串間市まで約1時間40分。志布志市を経由して都市市まで1時間10分。また、代表的観光地である都井岬まで約30分。高速道路の整備が遅れており、宮崎県内の市で唯一高速道路のICが存在しない。
- ・主要産業は農業。特にサツマイモ、キンカンがブランド化され、それぞれ「ヤマダイカンショ」、「キンカンタマタマ」として大都市圏のみならず、海外にもその販路を広げている。
- ・観光地としての顔も持ち、代表的な観光地である都井岬は、グランピング施設その他が整備され、多くの観光客が訪れる。また、恋ヶ浦をはじめサーフスポットにも恵まれ、移住者も増えている。



(2) 人口等

最盛期の4万2000人（昭和30年）をピークに減少に転じている。現在の状況は以下の通り。

①串間市の人口 令和6年2月1日

人口 15,532

男 7,271

女 8,261

世帯数 6,915

②串間市の小中学校生徒数

小学生 873（9小学校）

中学生 382（1中学校）

3 宮崎県立福島高等学校について

(1) 校訓

勉励・忍耐・明朗

(2) 教育目標

経営ビジョン

「郷土を愛し、夢や志の実現に向けて、挑戦する人を育む学校」

中高一貫教育の教育理念

「中高連携による6年間の一貫した教育活動を通じて、グローバル社会を生き抜く確かな学力と豊かな人間力を身につけ、郷土を愛し、夢や志に向けて努力する逞しい人材を育成する」

中高一貫教育（地域創生学）スローガン

「Think globally, Act locally! Think locally, Act globally! 地球規模で考え、足下から行動せよ！くしまから考え、地球規模で行動せよ！」

(3) 設置学科・類型

①普通科1学年3クラス（全9クラス）

②探究コース、総合進学コース

ビジネスコース

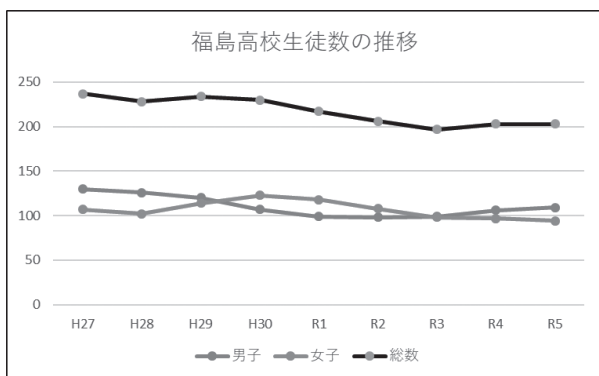
(4) 進路

難関国公立大学（大阪大学、九州工業大学、宮崎大学医学部医学科等）をはじめとした4年制大学進学が約半数。そのうち国公立大学に毎年10名前後の生徒が進学している。

短期大学、専門学校進学が約半数。就職者は10名以下で、県内、特に串間市内を希望する生徒が多い。

(5) 生徒数の推移

定員は360人（3学年）だが、ここ10年間、満たした年はない。令和に入り、200名前後で推移している。



(5) 特色ある教育活動

①地域創生学・地域創生学探究（学校設定教科）

平成29年度より、学校設定教科として「地域創生学」、「地域創生学探究」を導入し、探究的な学習活動を地域の協力の下、実施している。この学びを通じて、生徒たちは課題設定能力やコミュニケーション能力、プレゼンテーション力などを磨き、それぞれの進路実現に生かしている。それぞれの主な内容は以下の通りである。

地域創生学

- ・履修生徒：総合進学、情報ビジネスコース
- ・2年生2単位，3年生2単位
- ・2年生では企業や事業所等でのインターシップ、串間市の活性化につながるイベントの企画や地元の食材を使った食品開発等に取り組む。



小学生を招待してのSUP体験イベント

- ・3年生では地域の防災拠点であることから、炊き出し訓練や防災タワー見学など、防災教育に力を入れている。また、地域の防災士ネ



地元食材を使ったパンの商品化と学園祭での販売

ットワークとも連携し、防災士資格を積極的に取得させている。校内には、串間市建築士協会の協力を得て生徒も参加して作った8基の防災かまどベンチが設置されており、炊き出し訓練に利用している。



校内に設置した防災かまどを利用した炊き出し訓練

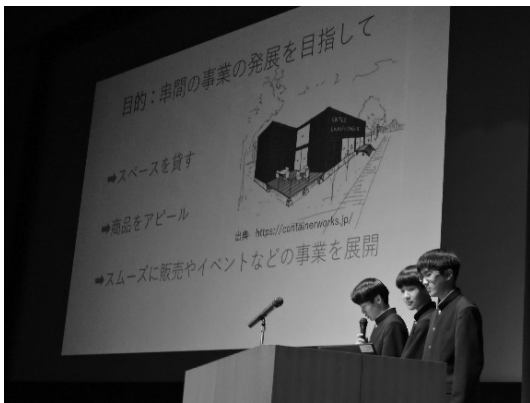
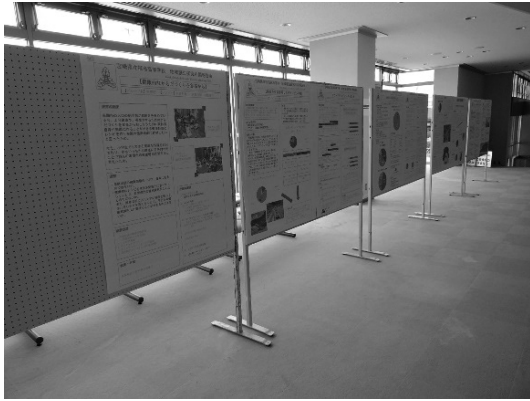


校内で実施した防災士養成講座

地域創生学探究

- ・履修生徒：探究コース
- ・2年生2単位

- ・「医療」、「まちづくり」、「観光」など、生徒が各自の進路選択に関わる分野に分かれ、串間市の課題の洗い出しとその課題解決の為の方策を提案する。
- ・毎年3月に発表会を行い、広く市民から意見を聞く機会を設けている。



②フレキシブルタイム「樹タイム」

通常授業を45分で実施し、放課後、それぞれの生徒、教員が自由に活用できる時間を確保している。個別指導、部活動、その他生徒一人一人にあった時間として利用できる時間としている。

③通級指導

令和3年度より、特別な支援が必要な生徒を対象とした「通級指導」を実施している。対人関係作りやコミュニケーション、アンガーマネジメント等に困難を抱えた（苦手意識のある）生徒に対し、「自立活動」（科目名「ライフスキル」「ソーシャルスキル」）を実施し、単位としても認定することで個に応じた教育の充実を図っている。

④「COREハイスクール・ネットワーク」構想の実施

令和4年、5年の2カ年間で、文部科学省による事業を実施し、市外の高等学校と遠隔授業を実施した。特に令和5年度は、宮崎南高校と国語、科学と人間生活、情報、の3科目。日南高校とは美術について遠隔授業を実施した。特に日南高校との美術の遠隔授業は、美術の教員が配置されていない本校にとって、これからの教育内容を考えていく上で大きなヒントを与えてくれる取り組みであり、生徒にとっても大変有意義な授業であった。

⑤コミュニティスクール(学校運営協議会制度)の導入

平成31年（令和元年）4月より、宮崎県の県立学校としては初の学校運営協議会制度（コミュニティスクール）を導入した。それまでに培った地域との関係をさらに強化し、地域の発展と本校生徒の育成とをともに実施するための組織として、以下の部会を編成している。具体的には、年5回、協議会を実施し、学校の現況報告や授業参観等を行った上で、学校運営に対する意見をいただいている。

- ・ **学校評価部会**：県立学校における学校評価に基づく学校運営の改善の取組（学校評価システム）において、学校生徒の保護者、その他の学校関係者による評価（学校関係者評価）を行う
- ・ **地域創生部会**：地域創生学における外部機関との連携、地域との協働によるイベント、学校間連携等の企画、学校安全（生活安全・交通安全・災害安全）に関し、地域、保護者とも協働して支援を推進する
- ・ **キャリア部会**：確かな学力の向上、家庭学習の支援、新テスト対策、キャリア形成、職業観の育成、将来の進路選択に関し、外部機関をはじめ、地域、保護者と協働し推進する。

4 串間市との連携

(1) 串間市小中高一貫教育の歴史

- ・平成19年4月、小中高一貫教育特区に選定される。
- ・平成20年4月、小中高一貫教育開始。

※小中高一貫した地域学習（くしま学）開始。

※つなぎ教材（数学、英語）の教育内容検討。

(2) 小中高一貫教育の内容

- ①総務・くしま学・学力向上研究の各部門に分かれ、小中高一貫した取り組みを行っている。
- ②くしまカルタ大会、キャリア教育ワークショップ、研究発表大会を実施し、児童生徒のみならず、小中高の教員同士の交流・共同研究を行う体制が作られている。



- ③小中学校で実施している「くしま学」と、高校で実施している「地域創生学」とがリンクするように工夫している。

(3) 連携型中高一貫教育の歩み

- ・平成26年4月、連携型中高一貫教育モデル地区の指定。（1年目）
- ・平成26年8月、串間市中学校再編計画発表。
- ・平成27年4月・連携型中高一貫教育モデル地区の指定。（2年目）
- ・平成27年11月・串間市における連携型中高一貫教育校の設置発表。
- ・平成28年4月・小中一貫・中高連携教育推進事業の指定。（平成30年度までの3年間）
- ・平成29年4月、串間市内6中学校（福島中学校学校、北方中学校、本城中学校、都井中学校、市木中学校）が1校に統合され、串間中

学校となる。

- ・宮崎県立福島高等学校と串間市立串間中学校との連携型中高一貫教育が始まる。
- ・平成30年2月・初めての連携型高校入試実施。
- ・令和元年4月・福島高校にコミュニティスクール（学校運営協議会制度）導入
- ・令和2年4月・串間中学校にコミュニティスクール（学校運営協議会制度）導入
- ・同年12月・連携型中高一貫教育校学校運営協議会実施

(4) 串間市から福島高校への支援

福島高校は県立の高等学校ではあるが、串間市唯一の高等学校であり、地元の期待は大きい。少子高齢化が進み、高等学校存続も危ぶまれた時もあったことから、生徒個人のみならず、福島高校の教育活動全般に対して、物心両面から多くの支援をもらっている。具体的には以下のとおりである。

①入学支援金

串間市内の出身者のみならず、福島高校へ入学する生徒全員に対して、一律7万円が支給されている。

②給付型奨学金

成績優秀生徒に対して、各学年5～10名の生徒に対して月2万円の給付型奨学金が支給されている。

③通学費補助

JRやバスを利用して登校する生徒に対し、定期券の全額を助成してもらっている。それ以外の遠距離通学生に対しては、距離に応じて年最高15,000円の補助金を支給してもらっている。

④検定料補助

実用英語検定（英検）、漢字検定（漢検）検準2級以上受検者に対して、受験料を全額助成してもらっている。

⑤部活動補助

上位大会（九州大会以上）に出場する活動生に、交通費、宿泊費の一部を補助してもらっている。

⑥台湾派遣研修

1年生の生徒15名以内、引率教員3名を3泊4日で台湾へ派遣しての研修を実施し、現地校との交流や串間市のPR、その他地域創生学の事前調査となる活動の為に費用を串間市が全額補助している。コロナ渦で中断していたが、令和6年度より再開予定である。



⑦串間市公営塾「樹スクール」

英語検定、大学入試対策等のため、市が運営費用を全額負担している。令和5年度は希望生徒を対象に、英語のみを週1日実施した。



※その他、地元で病院や福祉施設を運営する財団より、4年制大学進学者を対象に20名前後の生徒が給付金を支給してもらっている。

(5) 包括連携協定

①令和元年より、串間市、串間市商工会議所、

串間市教育委員会、福島高校との四者間で「学びのフィールド」を提供することを目的に締結し、インターンシップや地域創生学におけるフィールドワークなどで協力している。

②令和3年度より、宮崎学園短期大学との間で連携協定を結び、地域創生学のアドバイスやフィールドワークへの協力を受けている。



5 連携型中高一貫教育校としての取組

(1) 組織

①学力向上部会

中学校、高校それぞれの教務主任、教科代表者（数英、その他必要な教科）、相互乗入れ授業担当者で構成し、おもに乗り入れ授業、つなぎ教材についての協議を行う。

②キャリア教育部会

中学校、高校それぞれの進路指導主事、学年主任、キャリア教育（くしま学）担当等で構成し、地域創生学、やくしま学、キャリア教育に関する協議を行う。

③部活動・特別活動等部会

中学校、高校それぞれの生徒指導主事、部活動担当、生徒会担当等で構成し、部活動や生徒会の交流、合同芸術鑑賞会等に関する協議を行う。

(2) 相互乗り入れ授業

①形態・その他

- ・火、木の午前中に乗り入れ授業を実施
- ・中学校→高校（中学校より数学と英語1名ずつ。1年生ビジネス、普通クラス）
- ・高校→中学校（高校より数学と英語2名ずつ）

つ、3年全クラス)

- ・授業形態—数学・英語ともにT T。
- ・実施回数年間約35回

(3) 行事等

- ・中高合同芸術鑑賞会



(4) 合同教科会

①年2回実施

- ・第1回 4月、授業担当で教材作成等の確認。
- ・第2回 2月、系統立てた教科指導に向けての協議、情報交換。

(5) 部活動・生徒会活動

①合同練習

弓道部、レスリング部、バドミントン部
バスケットボール部が実施

②合同部顧問会

年2回実施。合同練習等についての意見交換を行い、合同練習や練習場の提供等の打ち合わせや情報交換を実施している。



③練習場所の提供(剣道場)

中学校の剣道部は校内で練習場所が確保できないため、高校の武道場を練習場所として週3回、提供している。

④生徒会交流会

年3回、生徒会役員が集まり、情報交換や協議を行い、中高生徒会、生徒同士で実施できる活動について計画を立て、実施の主体と

なっている。

(6) キャリア教育

①高校説明会・合同進路説明会

福島高校で高校1・2年生の生徒を対象に各種学校や企業の説明会を実施し、その会に串間中学校の2年生も参加している。

②地域創生学発表会

3月に実施するに、串間中学校の2年生全員と、串間市内の小学5年生全員が参加し、「くしま学」との関連や、その延長線上にある地域創生学の内容を学んでいる。

(7) 連携入試

平成30年度より、宮崎県で唯一、連携型入試を実施している。これは、宮崎県県立高校が推薦試験を実施している同じ日に行うもので、「簡便な入試」となるよう、下記の違いがある。

	対象生徒	提出書類	学力試験
連携入試	県内全中学校	連携のまとめ	あり
推薦入試	串間中学のみ	自己推薦書	あり

また、合格発表後、英語、数学、国語の課題帳を配布し、学習習慣の維持と、高校入学後の学習にスムーズに適応できるようにしている。その課題帳に関しても、高校の職員と中学校の職員とが会議を行って作成し、高校側が印刷して配布している。

宮崎県立福島高等学校 英語 合格者用課題 取り組む際の注意点 1 全て自力で解答して、1つ1つ字に丸付けをして見直し。 2 OXだけでなく、間違えたところは赤ペンで訂正する。 3 赤線を広くとってあるので、計算や参考書で不明な点を確認して、自分で解答・解説を書き込む。 4 取り組み方が異なる場合は、高校入学後に放課後の宿残り指導の中で、やり直しをしてもらいます。 5 入学後に、英語の授業内で確認テストを実施するため、課題に真摯に取り組み、確実に覚えるべきものは覚えること。特に動詞の活用は必ず暗記しておくこと。 6 提出日 3月26日(火)の納入を目標 Your Name: _____	推薦・連携型入試合格者 高校入学前課題帳 数学 数学は独立した学習ではなく、 あきらめず努力と忍耐が成功の鍵である Isaac Newton (1643-1727) 提出日: 3月26日(火) 新入生登録日 () 中学校 氏名 ()
---	---

6 広報活動

(1) SNSの利用

公式HPのほか、学校公式Facebookページ、Instagramも開設し、学校活動をリアルタイムで校外に発信することに努めている。



(2) 串間市広報との連携

串間市の広報誌「広報くしま」と連携し、学校の活動や生徒の様子を取り上げて紙面にして



もらい、情報発信している。

(3) 串間市PTA連絡協議会等との連携

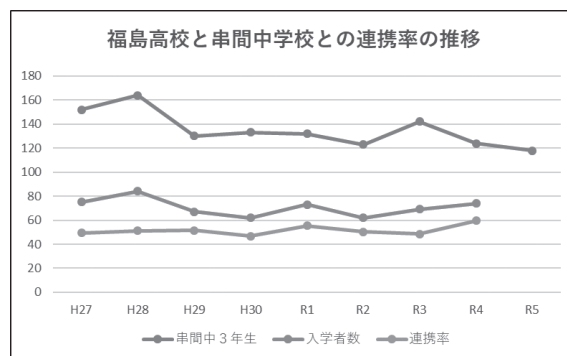
高等学校のPTAに協力してもらい、串間中学校のPTA総会にPTAによる福島高校の魅力PR活動を年に2回、実施してもらっている。また、串間市のPTA連絡協議会総会・研修会においても、福島高校の魅力を伝えるプレゼンテーションを行ってもらっている。

7 現状と課題

(1) 串間中学校との連携型中高一貫教育

①現状

連携型中高一貫教育が始まって7年が経過した。しかし、連携率（入学率）は例年50%で推移している。

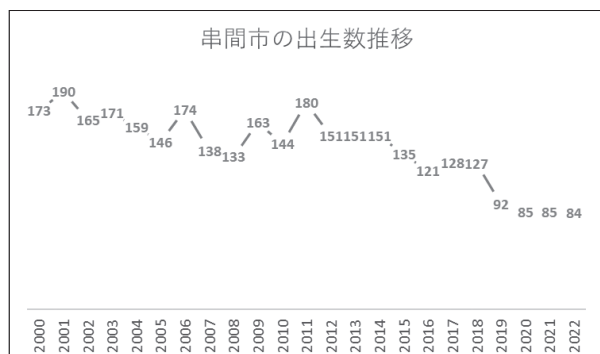


②課題

串間中学校と福島高等学校との連携型中高一貫教育も開始から7年が経過し、下記の課題があると考えている。

- ・少子化の加速による生徒数の減少
- ・学びの選択肢の少なさ
- ・連携型中高一貫教育への理解不足

まず、一つ目の少子化の加速による生徒数の減少についてである。串間市は、日本全国の地方と同じく、少子化・高齢化が進んでいる。特にコロナ渦において、令和4年度の串間市内の出生数は90人を割り込んでいる。

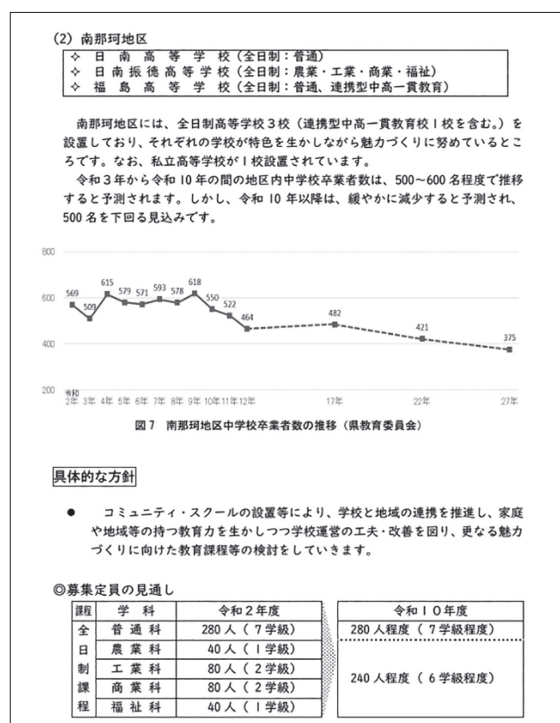


また、市内にある9小学校のうち、6校で複式の授業が行われ、1校は令和6年度を最後に休校になる予定となっている。さらに、串間市外の私立中学校への進学者も毎年約20名弱いる。そのため、串間市唯一の中学校である串間中学校の生徒数も減少し、120名前後となっており、福島高等学校の定員数120名と変わらなくなっているのが現状である。連携率が上がらない中、福島高校への進学者数は減少するばかりとなる。

二つ目の学びの選択肢の少なさである。これは、本校が普通科のみの学校であることが大きい。かつて商業科があったことから、商業の教員が配置され、職業に関する教科科目の設定ができる。しかし、それ以外の学びについては設定できていない。さらに、宮崎県の県立高校は、普通科と職業系専門学科とが5：5の割合で設置されており、福島高校が属する南那珂地区においてもその割合から、総合学科のように職業系専門学科の学びを実施することが難しい。

特に串間市の基幹産業である農業に関しては、農業を専門とする教員がいないことや、農場等がないことから、現在授業や実習等の体験学習を実施できていない。そのため、中学校から農業を志す生徒の多くが、串間市外の農業系専門高校へ進学している。また、本

校で農業を志す生徒の育成することが遅れている。



宮崎県立高等学校教育整備基本方針～新時代へ向けた宮崎の高等学校教育の創造～令和3年3月宮崎県教育委員会 より

最後の、連携型中高一貫教育への理解不足である。

串間市では、先述したように、小中高一貫教育を他地域に先駆けて実施してきた。そのなかで、小中学校の連携はかなり進んでいる。しかしながら、連携型中高一貫教育については、職員の異動があるたびごとにその意義や制度を理解してもらうことから始めざるを得ず、中学校、高等学校ともに年度のスタートから時間がかかるのが現実である。また、中学校から市外の高等学校への進学も当然あるため、中高連携しての取り組みに抵抗を感じる先生方も少なからずいるようである。

8 今後の展望～高等学校発の中高連携～

このような現状に対して、これからどのような取り組みをすべきであるのか。また、今後の展望について、以下のように考えている。

(1) 多様な選択科目の設置

普通科のみではあるが、多様な選択科目を設けること、また、2カ年にわたって実証授業を行った「COREハイスクール構想」の経験を生かした取り組みができるのではないかと考えている。例えば、選択科目に「産業社会と人間」、「農業と環境」等を取り入れ、職業系の高校の教員によるリモートで結んだ授業を行うことなどが突破口となるのではないかと考えている。

(2) インターンシップの充実

現在も実施しているインターンシップの取り組みをより充実させることが急務であると考えている。具体的には、農場での収穫や作付けなどの体験活動等を取り入れることで、農業実習に替えることができるのではないかと考えている。

(3) 高等学校主導企画の充実

連携型中高一貫教育は、中学校と高等学校とが設置者が異なり、校長も異なる。当然、それぞれの学校に所属する職員の意識も大きく異なっている。しかし、この違いを乗り越えていかなければ、少子化が進む地方において、連携型中高一貫教育は成立しない。高等学校のその地域における存在意義や、6年間にわたって生徒を育てるという中高一貫教育の理念を改めて確認し、「ともに串間市の人材を育成する」という志を共有しなければならない。そのためには何が必要か。まずは、教員向けの研修が充実されなければならない。

また、串間市を中心とした地域に、より福島高校の存在を強くアピールするためには、「福島高校発」で街を巻き込む取組が必要である。

例えば、現在、生徒会執行部の生徒たちが企画している学校アピールの取組が、学校の壁を利用したウォールペイントである。これをもとに、串間市全体を巻き込んだ取組に発展させたいと考え、企画しているのが「福島高校発 串間市アート化プロジェクト」である。

福島高校発

串間市アート化プロジェクト

～串間をウォールペイントの聖地に～

ゴール

- ・市内建物の壁面が作品に、串間市全体が美術館となる。
- ・串間市全体がウォールアートの聖地となる。

まずは、

福島高校校舎の壁

をアートで飾る！

さらに、就業人口が減少している現状と、高校生のキャリア教育とを融合した「福島高校キャリアサポーターシステム」の構築も構想段階である。

「福島高校キャリアサポーター（仮）」の設立 ～包括連携協定のより一層の具現化～

1 趣旨

福島高校生のキャリア形成をはかる取組の一つとして、学校と地域が連携し、地域の各事業所から提供された社会体験の場等をつかって社会人としての在り方を学ぶことで生徒の社会意識や職業観を高めるとともに、成就感を持たせ、さらに地域及び学校の活性化に資する。

2 活動内容の概略

- (1) 福島高校生への社会参加の場の提供
- (2) 福島高校生へのキャリア教育活動の実施
- (3) 福島高校生による地域活性化

3 参加団体

- (1) 串間市内の事業者
- (2) 串間市役所、商工会議所
- (3) 福島高校卒業生
- (4) 活動に賛同する個人

4 その他



コロナ渦において、人的交流が大きく制限された期間が長かった。今こそ、串間市、串間市教育委員会と小中学校、高等学校が一体となった教育活動が求められている。そのとき、イニシアチブをとるのが高等学校であると考えている。これまで協力してもらった串間市との連携を強めていくことで、今後も地方の連携型中高一貫教育を守り、育てていきたい。